

越冬資金融資を

ご利用ください

市は、中小企業の振興対策として、市内の各銀行と預託契約を結び、越冬資金の融資あつせんを行なっています。ご希望のかたはご利用ください。

■資格 市内に住所または事務所のある個人と法人

■融資の金額 一回の貸付額百万円以内

■貸出期間 十二月一日から明年二月末日まで

■返済期間 三月一日から五月末日までに、割賦または一

括償還すること

■指定金融機関 足利銀行・宇都宮信用金庫・栃木相互銀行・東陽相互銀行・大日光信用組合

■申し込み 市役所観光課商工係・商工会議所・指定金融機関

■サラーリーマン融資もどうぞ

中小企業に勤務する、組織をもたない勤労者にも、労働金庫

三氏に 秋の叙勲

恒例の秋の叙勲が十一月十二日に発表され、本市では次の三氏が晴の栄誉に輝きました。

【勲五等瑞宝章】

▽青木源四郎氏 七十歳、清滝四の九(地方自治功勞)



【勲六等瑞宝章】

▽堀江利雄氏 五十六歳、丹勢町六〇(圧延技能功勞)



【勲六等単光旭日章】

▽寺田良一氏 六十五歳、安川町(消防功勞)



の融資をご利用いただける制度があります。

■資格 一年以上市内の同一企業に勤務し、これからも引き続き勤務しようとする勤労者で、市税の滞納のない者

■貸付と返済方法

▽生活資金(冠婚葬祭・出産・医療・教育などに必要な融資で、担保はいりません)

融資額 一人、一件三十万円まで。返済 十一か月・二十三月か月・三十六か月払いの三種。利率 月〇・八七。

▽住宅資金(住宅の新築や、これに必要な土地購入のための融資で、土地・建物を担保とします)

融資額 担保物件評価額の八〇%以内で、最高百八十八万円まで。返済 百二十回(十年)の元利均等返済。利率 〇・八一%

■保証人 企業主と職場の同僚一人が必要です。

■申し込み 市役所観光課商工係か商工会議所へ。

今月の納税

固定資産税 第4期
都市計画税

〈12月25日まで〉

市史編さん日記

だより

十二月の市史

慶長十八年(一六一三)
南光坊天海、日光山統轄の任に就く

なく、ますます日光山は衰微するばかりだったので、家康は、信任の厚い天海を日光山の統轄者に任じました。

天正十八年(一五九〇)豊臣秀吉は、日光山の僧徒が小田原に加勢したのを憤り、日光山社領の大半を没収したため、日光山は火の消えたように衰微してしまいました。

天海僧正は、福島県会津の人で、早くから仏門にはいり、比叡山で天台の秘奥を探り、また諸宗の根元を研究して有名になりましたが、家康公の深い信任をうけていました。

そのうえ、慶長十八年には日光山住僧の間に争いが起り当時の日光山第五十二世監守昌尊は、これを統制する力も

慶長四年(一五九九)、武蔵仙波喜多院(川越市)の住職となり、この時、家康は比叡山の南光坊を天海に与えて住職としました。このため世に南光坊天海と呼ばれました。



天海が初めて日光に来たとき、日光山の所領は、わずかに足尾郷七百石のみでしたが、天海の尽力で、五千石の朱印を幕府から受け、元和六

▲天海僧正像 (寛永寺蔵)

年には、旧衆徒の寺院を再興して、大坊十五か寺、小坊八十坊を設けました。

寛永十四年(一六三七)には、二十人より成る伶人(れいじん)今日の音楽隊)を設けて舞楽を起し、寛永二十年(一六四三)には、山内の一角に(二荒山神社金鳥居の附近)相輪様を建設しました。

※注相輪様は、明治の神仏分離の際に、輪王寺本堂裏の現在の位置に移転されたものです。

この間、天海は京都、関東の間を往復して、朝廷と幕府の信任をますます厚くし、こうした天海の尽力で、日光山は急速な復興をみるようになりました。

天海は、寛永二十年(一六四三)、百八歳の高齢で、上野東叡山において他界しましたが、幕府は、山内大黒山に天海廟を造営し、無量院を建て別当としました。

その後、慶安元年(一六四八)四月十八日、朝廷から慈眼大師の称号が贈られました。天海廟の境内には、天海僧正の集めた古典などの、数多い書籍を収めた「天海蔵」と呼ばれる建て物があり、史料としても重要なものです。